

登録医ニュース

メタセコイア

第47号
2019.1

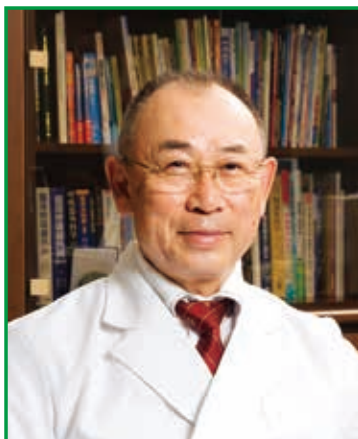
編集・発行/東北医科薬科大学病院 医療連携室

〒983-8512 宮城県仙台市宮城野区福室1丁目12番1号 Tel(022)259-1221(代表)

Tel(022)388-9593(医療連携室直通) Fax(0120)25-9121(医療連携室直通)

Eメールrenkei@hosp.tohoku-mpu.ac.jp ホームページhttp://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp

年頭のご挨拶



病院長 **こんどう 近藤** **たかし 丘**

明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本院は東北医科薬科大学病院として早いもので4年目を迎えようとしております。昨年4月に脳神経外科と形成外科が開設されて30を超える診療科となり、医療機関としての大学病院の体裁はほぼ整ったと言えます。また1月末には新大学病院棟が竣工し、4月からの稼働を

予定しています。これに伴い、病床数は461から554に、手術室は最新のハイブリッド手術室を設置して7室から9室に、血管撮影装置は現在の2台から3台にそれぞれ増え、放射線治療装置の新規導入とCTの増設もあって病院としての機能は格段に向上します。4月からは新大学病院棟は新館、従来の病院棟は本館と命名して運用をしていく予定です。一方、新館の稼働によりできる本館の空きスペースを改修して外来診療スペース、救急センター、内視鏡室、検査室、透析センターなどの拡張を行い、救急病棟や入院センターの新設も計画し、さらなる病院機能の強化を図ってまいります。さらに昨年暮れから始まった産科分娩室の整備が2月いっぱい完了し、4月以降の改修で産科外来も新設して本格的な産科医療の実施に備える予定です。

臨床系教員としての医師はその数が着々と増えてはいますが、本年は医学部1期生が4年生となり臨床実習が始まることもあって、まだまだ大きく不足しているのが現状です。一方で従前ほとんど実績のなかった臨床研修では昨年4月から8名が臨床研修を行っており、本年4月からも6名が臨床研修を行う予定になっています。また新専門医制度における専攻医数も少しずつ増えており、本院における若い力の育成も本格化してきたと言えます。加えて、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、臨床工学士など様々な職種においても人員強化が図られ、昨年12月には医師も含めた職員数が1000名を超える病院となりました。

診療科の増設、医療スタッフの増強、最新医療機器の整備、施設の新設や改修などによって高度な医療への対応力が一段と強化され、地域医療を支える病院として大きく成長する年となります。地域の皆様、登録医の皆様の力強いご支援によりこの病院のより一層の成長が実現できますように、本年も倍旧のお引き立てを心よりお願いいたします。

宮城県特に仙台東部地域皮膚科医療の更なる発展を目指して



かわかみ たみひろ
皮膚科 教授 川上 民裕

2018年10月1日付けで、東北医科薬科大学医学部皮膚科学教室主任教授を拝命致しました川上民裕です。宜しくお願い致します。東北医科薬科大学医学部皮膚科学教室の刷新を、東北医科薬科大学 理事長・学長であられる高柳元明先生から直々にお声掛け頂き、今回、初めて東北 仙台に赴任致しました。そして仙台に居を構えました。すでに近隣の先生方には、多くの紹介を頂き、厚く御礼を申し上げます。早速、入院も含めて対応しております。更なる病診連携の発展に御力添えを頂ければ幸いです。

私の生まれは東京 浅草で、中学高校も下町の質実剛健をモットーとした男子校でした。千葉県松戸市に転居した後、医師を目指すため千葉大学医学部に入学しました。

晴れて医師となった後は、アレルギーや膠原病に関心があり皮膚科を選択しました。

その後、千葉大学、東邦大学、米国留学、東邦大学、聖マリアンナ医科大学と皮膚科の研鑽を積んで参りました。すなわち、皮膚科全領域の疾患のみならず、膠原病、血管炎、アレルギー疾患、遺伝疾患、皮膚悪性腫瘍など、広範囲の疾患を診断し治療して参りました。その経緯の中で、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医を所得しました。こうした経験を活かして皮膚症状をもつ全患者さんに十分な対応ができる、地域のニーズに沿った医療連携を進めて参ります。ちなみに、米国留学では強皮症の主病因の一つがTGF β という成長因子の受容体(レセプター)発現の増強にあることを解明しました。この研究で医学博士を取得しました。

東北医科薬科大学医学部皮膚科診療では、受診した患者さんの改善にいかに関与できるかと常に念頭におき、全ての皮膚病に幅広く対応したいと考えております。なかでも患者さんが多いアトピー性皮膚炎、蕁麻疹では、通常の大学病院以上に定期的な診察を行い、日本アレルギー学会代議員としての経験を活かし、最先端医療である生物学的製剤も積極的に投与致します。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹は食物アレルギーと関連しますので、その予防に関しても指導して参ります。血管炎は難治な疾患ですので、皮膚症状からの早期発見・早期治療が重要です。日本皮膚科学会 血管炎・血管障害ガイドライン委員長として多くの症例を診療すると共に全国の皮膚科施設の総括に携わっております。厚生労働省血管炎研究班員として皮膚血管炎国際臨床研究の日本代表でもありますので、積極的な紹介をお願い致します。白斑は皮膚の色がなくなってしまう疾患で全世界の1%の方が罹患しております。日本色素細胞学会理事、日本白斑学会若手理事として白斑ガイドライン委員会にも参加しております。血管腫(Sturge-Weber症候群)、穿孔性皮膚症では、厚生労働省の研究班員である経験を活かし対応致します。すでに多くの紹介を頂いている乾癬では、より新規に開発された生物学的製剤などを積極的に投与致します。

私は、千葉大学、東邦大学、聖マリアンナ医科大学そしてその関連病院など、さまざまな診療施設での診療を通じて、他の診療科の先生方とのチームプレーが医療に極めて重要であることを認識しました。蜂窩織炎、带状疱疹、薬疹、皮膚癌では、他の診療科の先生方とのチームプレーで、すでに入院での加療を開始しております。更に、天疱瘡、類天疱瘡、膠原病、ベーチェット病、痤瘡(にきび)、白癬(水虫)、脱毛症など、可能な限り尽力して参ります。

皮膚の色を産生するメラノサイトは、単独での培養が困難で大量培養もできませんでした。私はヒト iPS 細胞からより大量で効率よく完成度の高いメラノサイトへの分化誘導に成功しました(特許取得特願 2014-003133・特願 2017-006673)。このヒト iPS 細胞由来メラノサイトを使用して、美容皮膚科、白斑治療・白皮症遺伝子治療・悪性黒色腫治療への応用を進めて参ります。

東北医科薬科大学医学部は、東北地方の地域医療を支えることを使命として開設されましたので、皮膚科診療のみならず他診療科との連携を密にし、東北地方に根ざした皮膚科の診療と教育に携わる所存です。特に東北医科薬科大学医学部が位置しております仙台東部地域の地域医療の更なる発展に貢献すべく尽力して参りますので、東北医科薬科大学医学部関係の諸先生方、近隣の諸先生方には、より一層の御指導、御鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科 最新治療への取り組み



東北医科薬科大学病院 副院長 耳鼻咽喉科科長 おおた のぶお 太田 伸男

耳鼻咽喉科の疾患は、一般的には耳や鼻などのごく狭い領域の病気をイメージされますが、日常診療で取り扱う範囲は首から上の領域で、脳（頭蓋骨）と眼、脊椎を除いた臓器すべてと言っても過言ではありません。特に、聞こえ・におい・味・体のバランスなど感覚に関わ

る臓器や、話をすること・呼吸をすること・食べること・飲み込むことなどの機能に深く関わる領域を取り扱うなど、いのちや生活の質(quality of life)を維持する上で必要不可欠な領域における疾患の治療に携わっています。

当科では外耳や中耳疾患、難聴やめまいを症状とする内耳の病気など耳に関する疾患を扱っております。また鼻アレルギーや副鼻腔炎といった鼻の病気、扁桃腺や声のかれ、ものが飲み込みにくいなどの嚥下の問題、口腔や咽喉頭、頸部、甲状腺の良性腫瘍や癌、リンパ節腫脹などをはじめとする顔面・頭頸部の疾患にも取り組んでおります。顔面神経麻痺やめまいの原因の検索には聴力や平衡機能などの耳の検査が必須で、適切な治療によって改善致します。鼻疾患に対して内視鏡を用いた侵襲の少ない手術法を行い、良好な成績をあげております。さらに喉頭癌・上顎癌・口腔咽頭癌など頭頸部悪性腫瘍につきましては、放射線科や腫瘍内科と連携をとりながら、生活の質（QOL）に配慮した、より効果的かつ負担の少ない治療に取り組んでおります。

当院は地域の中核病院として最新かつ高度な医療の提供とこれまで以上に綿密な病診連携に取り組んで参りたいと考えております。今後とも登録医の先生方のニーズにお応えできる病院であることを目指して努力して参りたいと思いますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、日頃から東北医科薬科大学の診療・教育・研究にご協力頂いている皆様にお礼を申し上げますとともに、ご健勝を祈念申し上げます。

診療実績のご紹介

まずは、当科の診療実績をご紹介します。（表1）

平成29（2017）年手術件数（表1）

手術名	件数
扁桃摘出術	86件
ラリngoマイクロ手術	29件
内視鏡下副鼻腔手術	129件
鼻副鼻腔腫瘍	6件
耳下腺腫瘍摘出術	52件
顎下腺摘出術	10件
頸部のう胞・甲状腺など	14件
中耳・外耳道手術	43件
その他	214件
年間手術件数	583件

われわれは低侵襲で安全確実な手術にも取り組んでいます。

唾石症の手術は従来顎の部分を開いて行っておりました。確実に石は取れるものの傷が残ってしまうことが問題でした。

われわれは、極細の特殊な内視鏡を用いて口の中から摘出する手術を行っています。また、耳下腺の腫瘍に対しても従来の方法よりも傷が目立たないアプローチで手術を行い良好な成績を出しています。



内視鏡下唾液腺手術のセット



手術の様子

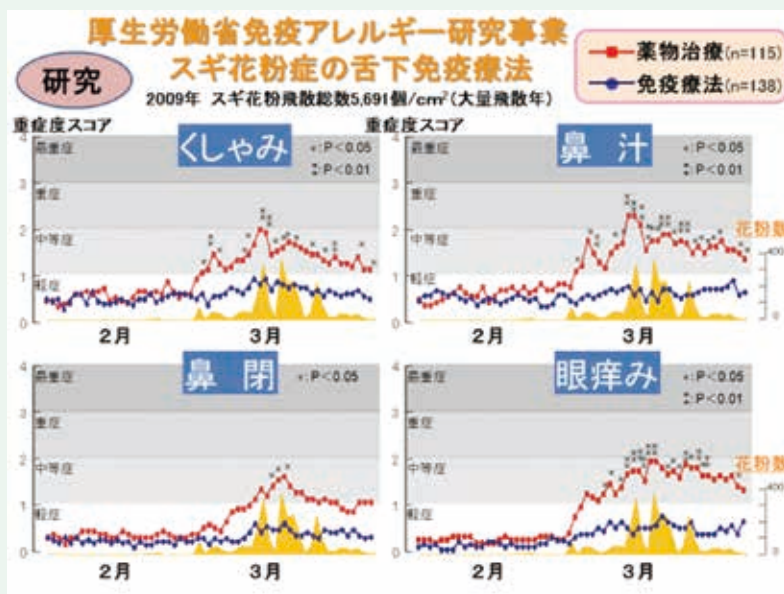
舌下免疫療法のご紹介

アレルギー性鼻炎を根治する免疫療法にも積極的に取り組んでおります。

従来は抗原を皮下に注射をする方法でした。毎週通院しなければならないこと、注射された部位がしばらく腫れることが問題でした。

こういった問題を解決するために舐める免疫療法が開発されました。舌下免疫療法です。注射は不要、効果は高く安全です。スギ花粉とダニに対してアレルギーがある方に行っています。

舌下免疫療法の有効性



硬化療法のご紹介

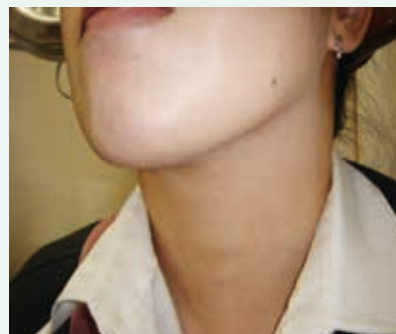
～切らずに治す治療～

硬化療法もわれわれが得意とする領域です。従来手術が行われてきたガンマ腫やリンパ管腫などの病気にお薬を注入することで“切らずに治す”治療に取り組んでいます。

顔面神経麻痺の治療とリハビリテーションにも対応しております。特にある程度麻痺は回復したものの“けいれん”や病的な共同運動に悩む場合には、ボトックスの局所投与によって改善を図ることができます。



図4 硬化療法前



硬化療法4週後

(Ohta et al, Acta Otolaryngol 2010より引用改変)

新しく開設した専門外来をご紹介します

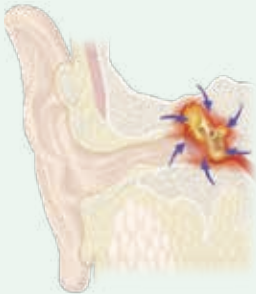
耳鳴難聴外来（TRT外来）

～薬物治療から補聴器を利用した音響療法（TRT）へ～



難聴や耳鳴で悩んでおられる方を対象に“難聴・耳鳴外来”を行っております。音を聞き取る「聴覚」は大切な感覚のひとつです。私たちは言葉を聞いて、言葉を話し、コミュニケーションを取っています。「難聴」は会話によるコミュニケーションの障害をもたらし、現代ではお年寄りの「難聴」が引き金となった認知症が大きな問題となっております。この問題を解決するために難聴の原因を詳しく調べ、薬物や補聴器などそれぞれの難聴に合わせた対応を行っております。また、耳鳴も不愉快な症状でさまざまな原因で生じます。最近、音を聞いて耳鳴りを治す画期的な治療方法（TRT）が開発されました。耳鳴で悩む方の解決につながるように専門医が対応しております。TRT希望を含む慢性難聴、耳鳴の患者さんは一般耳鼻咽喉科外来を受診していただき耳鳴、難聴となる原因の精査を行います。その後TRT療法が必要な方はカウンセリングと補聴器を装用し治療を行います。補聴器導入後は補正からアフターケアまで当院で行いますのでご安心ください。

中耳外来のご紹介



「中耳炎」による「難聴」や「耳だれ」は患者さんの生活の質を低下させます。

当科では「難聴」や「中耳炎」に対する全般的な治療を行っております。特に難治性である好酸球性中耳炎を対象に局所的な治療や内服治療に力を入れており喘息や副鼻腔炎を合併している場合には内科とも連携したマネジメントを行っております。

嚥下外来のご紹介



嚥下障害は、加齢変化、口腔咽頭・喉頭の疾患に続発するもの、他疾患治療後に二次的に起こるもの、神経難病など様々な原因で起こります。

当科では、嚥下機能に関する理学検査、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査などにより、障害されている部位や重症度を評価し、言語聴覚士や看護師と連携を取りながら、摂食嚥下リハビリテーションを中心に診療・治療を行っております。

また、患者さんの摂食に関するニーズにより、嚥下改善手術や誤嚥防止手術など外科的アプローチによる対応も行っております。

連携室からのお知らせ

今回メタセコイヤにてご紹介いたしました皮膚科、耳鼻咽喉科の受診方法についてお知らせいたします。

皮膚科受診について

- 診療日 月曜日～金曜日
- 受付時間 8時30分～11時30分
- 受診方法 紹介状をご持参のうえ受付時間内におこしください。
- 予約について
医療機関からの予約に限ります。患者さんからお電話をいただいても予約はお取りできませんのでご注意ください。

耳鼻咽喉科受診について（耳鳴難聴外来、中耳外来、嚥下外来含む）

- 診療日 月曜日～金曜日
- 受付時間 8時30分～10時
- 受診方法 紹介状をご持参のうえ受付時間内におこしください。
専門外来につきましてもまずは一般耳鼻咽喉科外来の受診となります。
- 予約について
医療機関からの予約に限ります。患者さんからお電話をいただいても予約はお取りできませんのでご注意ください。

消化器内科検査の予約について

消化器内科では、地域の医療機関から検査の予約をお受けしております。

- 予約可能な検査項目
上部内視鏡検査 腹部超音波検査
- 検査日 月曜日、火曜日、木曜日
- 検査当日の流れ
 - (1) 2番新患窓口で受付後すぐ検査になります。
 - (2) 検査終了後、消化器科外来にて医師の診察があります。
 - (3) 診察後、治療が必要な方は次回予約を取りますが、異常が無い方は終了となり帰宅となります。ご紹介いただいた先生方へはお返事をご郵送いたします。
- 予約について
紹介状に予約希望日と希望する検査項目を記載し連携室までFAXを送信してください。希望日の記載が無い場合は最短でお取りできる日で予約いたします。
予約は医療機関からの予約に限ります。患者さんからお電話をいただいても予約はお取りできませんのでご注意下さい。

～新大学病院棟ができるまで 第7回～

2019年1月末の竣工を目指し、現在、新大学病院棟を建設しています。この新大学病院棟は、ハイブリッド手術室、バイオクリーンルームを含め手術室9室のほか、リニアックなど高機能の機器を備えた放射線治療室や画像診断室等を有しており、これまで以上に高度で先進的な医療の提供が可能となります。病床数はICU14床を含め150床で、既存病院と合わせた総病床数は616床となり、名実ともに大学病院にふさわしい体制が整うこととなります。



●2018.5.29

現在、6～8階の鉄骨建方工事を行っています。また、消火ポンプ室、排水処理施設等からなる付属棟の基礎工事を行っています。



●2018.6.28

現在、6～8階の鉄骨建方が完了し、1～3階の内装工事及び外装工事を行っています。また、付属棟は、2階梁スラブ配筋を行っています。



●2018.8.30

現在、新大学病院棟の内装及び外装工事等を行っています。エレベータ工事も開始されています。



●2018.9.24

現在、新大学病院棟及び付属棟の内外装工事等を行っています。